

平成 30 年度都道府県医師会ドクターバンク・ 女性医師支援担当役員連絡会



理事 城間 寛

平成 30 年度都道府県医師会ドクターバンク・ 女性医師支援担当役員連絡会

一 次 第 一

日 時：平成 31 年 1 月 18 日（金）14 時～15 時 45 分
場 所：日本医師会館 小講堂
進 行：道永常任理事

< 開 会 >

< 接 拶 > 14：00～14：10

日本医師会女性医師支援センター長 今村 聡

< 講 演 > 14：10～14：30

アンケート調査結果報告と
今後のドクターバンク事業の展開について

日本医師会常任理事 小玉 弘之

【資料 1】

< 情報提供 > 14：30～14：40

日本医師会女性医師バンク事業の
活性化に向けた取り組みについて

日本医師会女性医師バンクコーディネーター
久井 明子

【資料 2】

< 協 議 > 14：40～15：45

今後のドクターバンク事業の展開について
質疑応答・協議

< 閉 会 >

終了後、懇親会を開催
会場：日本医師会 3F 小ホール

当日は、まず、今村副会長より挨拶があった。それに引き続き、小玉常任理事より、前もって各都道府県医師会に行われたドクターバンク事業についてのアンケート調査の結果報告が行われた。各県医師会で運営している同事業の問題点は、求職登録者数が少なく、また求人登録施設数が少ない事である。その結果として成約数も少ないという事である。また、同事業をまだ実施していない医師会の理由は、①運営の費用、人員を確保できない、②医師の求職ニーズが少ないなどであった。その様な中で個別の意見として、「ドクターバンク事業県を超えてのマッチングが必要な時期になっている。」また「女性医師だけでなく男性医師やシルバー医師についても、全国レベルの展開をお願いしたい」との意見もあった。そして「顔の見える支援は、単に就職先を紹介するだけに留まらず、日本全国、広い範囲を網羅し多くの求人登録のある日医女性医師支援バンクと地域の医師会が連携して、「顔の見える地域のコーディネート機能体制の確立について検討をお願いしたい。」などの意見が寄せられた。これらの各県からの意見に答える形で、今後の展開として、日本医師会の女性医師支援ドクターバンク事業と各県の同事業を連結することが提案された。この事業そのものは厚労省の補助事業で運営されており、各県の運営費用の軽減や、ノウハウの共有にも繋がりさらに広がる可能性が高まることに繋がると考えられるので是非実現して行きたい。

※会の内容については上記の通りとなっており、報告書の詳細につきましてはホームページをご参照ください。

URL：http://www.okinawa.med.or.jp/

（その他 関係情報から報告へお進み下さい。）